

## 北ア後立山連邦 岩道を辿って展望の山旅 八方尾根～唐松岳～五竜岳

- 実施日 2014年9月1日(月)～3日(水)  
 天候 雨／晴れ・曇り／晴れ・曇り  
 C L 石原 勝正  
 S L 伊藤 久雄  
 参加者 涌井良明、白石恵美子、渋谷賢寿、渋谷京子、中村友子、伊藤久雄、石原勝正 計7名  
 費用 JR15,240円(新宿起算)、  
 ① 350円、ロープウェイ(八方・五竜)2,500円、宿泊19,000円  
 合計 37,760円
- タイム 9/1 白馬駅(11:28①)八方アルペンライン(11:40ロープウェイ・リフト)八方池山荘(12:25～35)八方池(13:40)丸山(15:10)唐松岳頂上山荘(16:10) 泊  
 9/2 唐松岳頂上山荘(6:33)唐松岳(6:50～7:05)唐松岳頂上山荘(7:20～7:30)休2511m近(8:30～35)大黒岳(8:55)五竜山荘(10:50～11:10)五竜岳(12:20～30)五竜山荘(13:10) 泊  
 9/3 五竜山荘(6:30)西遠見山(7:45～55)西遠見(8:10～25)大遠見山(8:50)中遠見山(9:22～35)小遠見山(9:50)地蔵の頭(10:45～55)アルプス平(11:50ロープウェイ)ロープウェイ山麓駅・エスカラザ(12:15～30)みみずくの湯(12:40～13:30)白馬駅(13:40～14:38あずさ26号)

9 / 1 - ① (記・石原 勝正)  
 今回の山行は8月29日(金)に決行予定であったが岩場やガレ場が続く縦走期間中に天気予報で雨が予想されていたため、天気の回復を待って日程を3日遅らせて出発した経緯があった。にもかかわらず八方ゴンドラ駅についたときもガスで展望は効かず雨模様になってきたため、兎平駅で雨具を着用してリフトに乗

り換えることになった。リフト終点の八方池山荘から八方山経由で第3ケルンへ出発する頃はガスが流れていたものの雨は止み暫く登ると整備された木道に入る。登山道の両傍には白や薄紫やピンク



の高山植物の花々を鑑賞しながら八方ケルンを通過し1時間ほどゆっくり歩き第3ケルンに到着する。そこからは霧を通して

下方にうっすらと八方池を眺めることができる。晴天であれば右側に白馬鎗、天狗の頭から不帰剣の岩峰、左側には五竜岳から下る遠見尾根などを展望できる絶好の場所であるが残念ながら視界は全く開けない。第3ケルンを過ぎると次第に雨が降り始める。登山道はダケカンバなどの樹林帯を通り左斜面に扇雪溪を見ながら段々強くなる

雨の中を1時間ほど登り丸山に至る。丸山を過ぎると樹林帯を抜け稜線の岩稜帯に入り、暫く稜線と斜面につけられたガレ場の登山道を進む。登山道は雨で沢のように水が流れるのを気にしながら八方尾根南面の岩場の登山道をたどってゆくと赤い壁の唐松岳頂上山荘の裏側にでる。山荘の前庭に回り込むと霧が若干薄れて右側に明日登頂予定の唐松岳のピークが展望を暫し楽しんで、午後4時過ぎに今日の宿となる山荘に入った。



9 / 1 - ② (記・涌井 良明)  
 山に向かいつつ列車からいつも挨拶をする南アルプスや八ヶ岳の姿が今日はガスに隠されてはっきりしない。やはりいまひとつ盛り上がり欠ける気分だ。まっそれでも山は山である、降られても良いように車内で昼食も済ませてから白馬駅に降り立つ。曇空に八方尾根上部の黒さが気になる。取り敢えずタクシーで八方アルペンライン乗り場へ。ロープウェイとリフト2本を乗り継い

で八方池山荘へ、既にガスの中であり滴は落ちてはいないが、いつ降り出してもという感じである。

この先しばらくは八方尾根の遊歩道を登ることになる。遊歩道とはいえ濡れた蛇紋岩が多い道で滑り易く注意が必要である。下りに使われることが多い尾根に向かい左側から木道経由で足元の草花などを楽しみに歩く。ウメバチソウ、マツムシソウ、イワショウブ、ハクサンシャジン、シモツケソウなどだが水滴がアクセントになってイイ感じ。



以前雷で逃げ込んだことのある尾根のトイレを過ぎて一服。まだ雨は来てないが今にも泣き出しそうなしっとり

りしたガスに包まれている。八方ケルンを過ぎ、右下に人気のない八方池がソフトフォーカスをかけたように佇んでいる。

八方池を過ぎると、登山道らしくなり岳樺も多く見られる樹林帯になる。この辺りから丸山迄が今日の登りのポイントだ



らう。植生と共に地勢も変わって花崗岩の道となってくる。この頃になるとやって来ました水滴が・・・雨具も着直して今年の北アでも、悲しき雨音(歌ってたのはカクズ古〜い!)を聞きながら歩くことになった。丸山ケルンは通らずに巻いて過ぎる、その先からは傾斜も比較的緩くなり、ちょっとしたガレの先を、尾根を回り込むと目線の先に唐松頂上山荘が見えた。

雨は本降りだが、小屋前からは唐松岳も姿を見せていた。

最盛期も過ぎ、こんな天候もあって空いている小屋ではゆったり過ごすことができたのは有難かった。オ・ヤ・ス・ミ・・・

がっ、小屋が寝静まってしばらくしてその事件はおきてしまったジャジャーン!

以下... 9 / 2 ~ 3のレポートをどうぞ

9 / 2 ~ 3 (記・伊藤 久雄)

今朝は昨夜の雨もすっかり止み上天気である。

昨夜アクシデントがあり残念だが1名下山、6名での出発となった。

東の方角にかすかに富士山、八ヶ岳が見える。小屋前から25分ほどで唐松岳の山頂、此処からの眺めは北の方に不帰嶮、白馬三山、東に昨日は雨で何も見えなかった八方尾根、その左右に太陽に照れされ白く輝く雲海が広が



っている。南には頂上山荘の南から続く五竜岳、その遥か遠方に槍ヶ岳、穂高連峰が、西には劔岳、立山や去年一昨年登



った薬師岳、雲の平方面の展望が広がる。

暫く堪能した後五竜岳に向かって歩を進める。

時々振り返ると唐松岳がよく望める。しかし直ぐに牛首という岩場と鎖の連続

する場所が現れ緊張を強いられる。昨年登った〇〇さんがビビッタと噂された所である。昨日雨が降った後なので慎重に登っ



ていき大黒岳を過ぎると樹林帯になりさらに進むとハイマツ帯となり緩やかな稜線歩きになる。

西側の山々を眺めながらのんびりと歩を進める。時々富山県警だろうか、真っ



赤なヘリコプターがパトロールをしているのか上空を何回も旋回する。坂道を登りきり白岳の分岐にたどり着き右に下る

と五竜山荘の裏手に出る。宿泊の手続きを済ませ20分位休憩をしてから百名山の五竜岳を目指す。

登りが1時間ほど、又岩場が連続す



るという事でリュックを日干し状態にして登り始める。始めは砂礫の道を登って行くが徐々にきつくなり岩場の連続になり鎖の有る所無い所を三点支持、四つん這いになりながら最後のガレ場を登ると五竜岳山頂に着く。



晴れていれば唐松岳同様に素晴らしい展望が望めたのだが真っ白な雲に覆われて何も見えない。記念写真を撮って早々に下山する。

9/3 今朝は朝日を見るため5時少しすぎに外に出て待つ。雲が少し邪魔をしていたがなんとか素晴らしい御来光を見ることができた。いつ見ても良いものだ。



そこで皆さんと記念写真を撮ろうと思ってそばを通った登山者に声をかけて撮ってもらったが、ン？ 何とあの「みなみらんぼう」さんではありませんか、快く握手にも応じてくれて早起きは三文の得であった。

朝食は三日目になるとさすがに食欲が落ちてくるが無理に詰め込む。Sさんは食欲が無いと言いつつ大盛り飯二杯さすがである。山荘の裏手から少々きついザレ場の坂を登り白岳に着く。そこから西遠見山に向かうが好天に恵まれ北に昨日登った唐松岳、南西に五竜岳、その向こうに鹿島槍ヶ岳の展望が広がる。



今朝も長野県警のヘリコプターがパトロール



であろう何回も旋回し時には人の顔が分かるぐらいに接近してきた。



途中岩場・鎖場があるが西遠見山を過ぎると池塘が現れすっかり曇り空になっていた

たがここでコーヒータイムにする。

下山を開始しようと振り返ると雲の切れ間から一瞬五竜岳が現れ八方池にはかなわぬが池塘の水面に五竜岳が写しだされ感動した。



遠見尾根はすっかり曇り空になり眺望は全くなく灌木の間を粘土質や花崗岩質の道を小遠見山まで登下降を繰り返しながら淡々と下っていく。

晴れていれば小遠見山からは鹿島槍ヶ岳や北アルプス北部の山々を見ることが出来るのだが。

地蔵の頭で小休止、アルプス平の時期は過ぎていたがお花畑を散策しテレキャビンで無事に下山をした。

白馬の温泉に立ち寄って解散となる。今回も異常気象には悩まされたが二日目、三日目の午前中はよく晴れ、又一日の歩行時間はそれほど長くはないものの岩稜帯が多く緊張を強いられた山だったが充実した登山でした。

アクシデントもありましたが皆さんのご協力により無事に下山することができました。お疲れ様でした。

(写真提供・伊藤久雄/涌井良明)

